

氏名	角 南 考 昭		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1779 号		
学位授与の日付	昭和62年6月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	持続的直流通電による家兎大脳皮質脳波の変化について		
論文審査委員	教授 中山 沃	教授 大田原俊輔	教授 大月三郎

学位論文内容の要旨

麻酔あるいは無麻酔家兎の大脳皮質表面より表面陽極性直流を通じた。電流強度は10-20 μA よりはじめ中断することなく10-20 μA ステップで次第に強め、上限は300-500 μA としたが各電流値は2分間維持した。通電中に出現する発作活動はその最盛期において雑音とまぎらわしい極めて汚ないパターンを示したが、以下のべる理由より人工産物ではないと考えられた。すなわち、(1)この発作波は通電中止後にも出現することがある。(2)発作波の初発部位は通電部皮質ではなく、前頭極附近であることがもっとも多かった。(3)激しい発作活動中に盛んな単一ニューロン活動が記録された。(4)激しい発作活動に対応して筋緊張がたかまった。持続的表面陽極性通電の皮質ニューロン活動に対する影響は、それが激しい発作活動をひき起すのに十分な強度の場合、強い促進作用を有するものとおもわれた。

論文審査の結果の要旨

家兎の脳波を記録しながら、大脳皮質表面に陽極性直流を通ずると発作波が発生することを確認し、通電部皮質のニューロンの放電および前肢筋微小運動の同時記録から、この発作波が人工産物でないことを証明した価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。